

2007. 9. 29

東大、医科歯科がトップ堅持、和歌山県立医大が躍進

「臨床研修マッチング」中間公表の全大学ランキング

今年で5回目となる「医師臨床研修マッチング」。今年も「日経メディカル オンライン」が独自に入手した、中間公表の結果をお届けする。研修医にとっての純粋な大学の人気度を示すデータだ。

表1が中間公表で、医学部6年生が1位希望した数が多い順にランキングした結果だ。トップ5は昨年と全く同じ常連大学。同数1位となった東大、東京医科歯科大は、不動のポジションとなった感がある。3～5位の、順天堂大、京大、北里大も、微妙な順位の上下はあるものの、人気はほぼ定着したといいだろう。

トップ10の中で6～10位には大きな変動が見られた。九大、長崎大、京都府立医大が外れ、代わって、神戸大、慶応大、和歌山県立医大がランクイン。中でも、昨年7位(55人)の長崎大が54位(17人)と大きく順位を落とす一方、神戸大が28位(33人)、和歌山県立医大が23位(36人)からジャンプアップして6位(52人)、9位に入ったのが目を引く。

特に、和歌山県立医大の1位希望者は、64人の定員に対して47人。決して恵まれているとはいえない地理的条件を考えれば、研修プログラムの中身が学生に評価された結果といえるだろう。

表1 初期臨床研修における大学の人気病院ランキング(医師臨床研修マッチングの中間公表による) 医学部を持つ大学・医科大学の計79の本院分のみ集計。1位希望者数の多い順にランキングした。

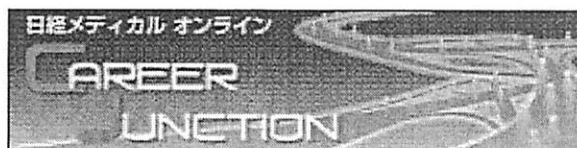
順位	昨年 順位	変動	大学名	定員(人)	1位希望 者数(人)	充足率 (%)
1	2	↑	東京医科歯科大	123	94	76.4%
1	1	→	東大	130	94	72.3%
3	4	↑	順天堂大	70	69	98.6%
4	3	↓	京大	105	65	61.9%
5	4	↓	北里大	100	53	53.0%
6	28	↑	神戸大	72	52	72.2%

7	11	↑	慶応大	60	51	85.0%
8	9	↑	自治医大	60	49	81.7%
9	23	↑	和歌山県立医大	64	47	73.4%
9	8	↓	東京女子医大	90	47	52.2%
11	6	↓	九州大	100	44	44.0%
12	33	↑	藤田保健衛生大	75	41	54.7%
13	33	↑	獨協医大	66	40	60.6%
13	24	↑	千葉大	95	40	42.1%
15	13	↓	熊本大	92	39	42.4%
15	15	→	阪大	100	39	39.0%
17	39	↑	佐賀大	56	38	67.9%
17	18	↑	日大	70	38	54.3%
17	33	↑	聖マリアンナ医大	72	38	52.8%
17	15	↓	北大	80	38	47.5%
17	20	↑	筑波大	80	38	47.5%
22	52	↑	札幌医大	69	37	53.6%
23	45	↑	香川大	40	36	90.0%
24	39	↑	横浜市立大	48	35	72.9%
25	28	↑	久留米大	80	34	42.5%
26	10	↓	京都府立医大	90	32	35.6%
27	47	↑	愛媛大	43	31	72.1%
27	31	↑	金沢大	45	31	68.9%
27	11	↓	大阪市立大	60	31	51.7%
27	22	↓	兵庫医大	60	31	51.7%
27	60	↑	近畿大	65	31	47.7%
27	24	↓	東海大	72	31	43.1%
33	39	↑	日本医大	40	28	70.0%
33	46	↑	滋賀医大	46	28	60.9%
35	20	↓	東京医大	55	27	49.1%
35	39	↑	大阪医大	55	27	49.1%
35	18	↓	川崎医大	68	27	39.7%
35	28	↓	奈良県立医大	70	27	38.6%
39	24	↓	大分大	64	25	39.1%
39	31	↓	杏林大	75	25	33.3%
39	15	↓	浜松医大	80	25	31.3%
42	54	↑	宮崎大	50	23	46.0%
42	33	↓	東京慈恵医大	50	23	46.0%
42	47	↑	山梨大	60	23	38.3%
45	54	↑	富山大	50	21	42.0%
45	54	↑	関西医大	50	21	42.0%
45	47	↑	鹿児島大	70	21	30.0%
48	54	↑	昭和大	40	20	50.0%
48	54	↑	新潟大	64	20	31.3%

50	60	↑	福井大	52	19	36.5%
50	27	↓	広島大	60	19	31.7%
52	13	↓	福岡大	63	18	28.6%
52	39	↓	群馬大	79	18	22.8%
54	69	↑	徳島大	41	17	41.5%
54	33	↓	埼玉医大	50	17	34.0%
54	39	↓	山口大	60	17	28.3%
54	33	↓	信州大	90	17	18.9%
54	7	↓	長崎大	90	17	18.9%
59	67	↑	帝京大	60	16	26.7%
60	72	↑	鳥取大	43	15	34.9%
60	64	↑	島根大	48	15	31.3%
62	72	↑	旭川医大	39	14	35.9%
62	51	↓	東邦大	42	14	33.3%
62	74	↑	秋田大	43	14	32.6%
65	52	↓	琉球大	36	13	36.1%
65	50	↓	山形大	50	13	26.0%
67	54	↓	高知大	37	12	32.4%
67	60	↓	東北大	40	12	30.0%
69	76	↑	名古屋大	20	10	50.0%
69	79	↑	岩手医大	35	10	28.6%
71	63	↓	金沢医大	56	9	16.1%
71	65	↓	名古屋市立大	62	9	14.5%
73	78	↑	弘前大	40	8	20.0%
73	65	↓	愛知医大	40	8	20.0%
73	69	↓	福島県立医大	44	8	18.2%
76	71	↓	岡山大	32	7	21.9%
77	67	↓	岐阜大	37	6	16.2%
77	75	↓	産業医大	40	6	15.0%
79	76	↓	三重大	26	4	15.4%

(次ページに続く)

(風間 浩 = 日経メディカル オンライン)



>> 医師の転職サポートは「Career Junction」へ

地域差に加えプログラムの質の差も

下位の顔ぶれも大きくは変わっていない。前回6大学だった1位希望者1ケタの大学は、今回9大学。岐阜大、岡山大、愛知医大、福島県立医大、金沢医大、名古屋市立大が今回、新たに1ケタ台となり、名大、秋田大が抜け出した。

全体を俯瞰して昨年からの変化を見ると、大きく順位を伸ばしたのは、藤田保健衛生大(33位→12位)、獨協医大(33位→13位)、佐賀大(39位→17位)、札幌医大(52位→22位)、近畿大(60位→27位)といったところ。一方、福岡大(13位→52位)、浜松医大(15位→39位)、広島大(27位→50位)あたりがかなり順位を下げている。

大きな流れとして、「都市部が優位、地方が苦戦する」という傾向は変わらない。だが、一方で、地域性とは関係なく、順位を大きく上げた大学や大きく下げた大学があるのが今回の大きな特徴だ。マッチングも5回を数え、大学に関しても、研修医がプログラムの質を吟味して応募するようになってきていることがうかがわれる。

(風間 浩＝日経メディカル オンライン)



>> 医師の転職サポートは「Career Junction」へ